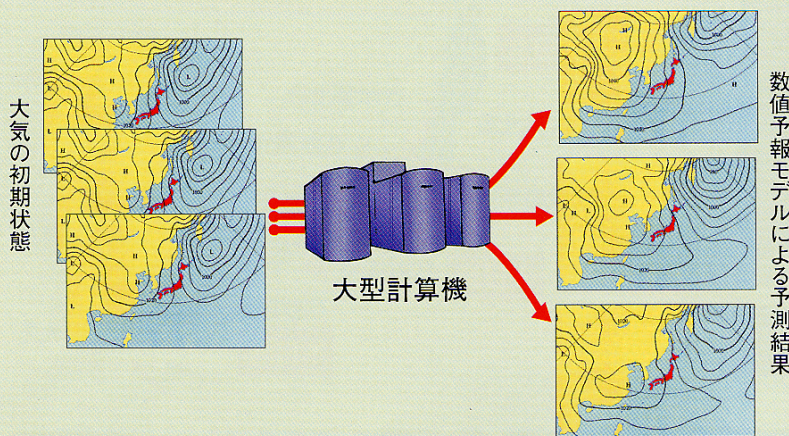


1か月予報の精度と数値予報による季節予報の予測期間の延長

季節予報の種類と予測手法

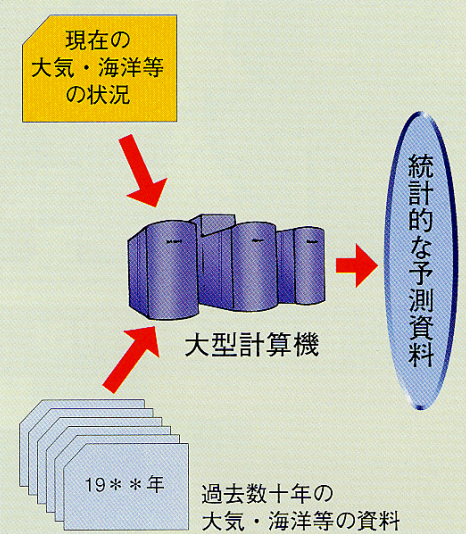
種類	発表日	予報内容	確率で表現している予報要素	予測手法
1か月予報	毎週金曜日	向こう1か月間の平均気温、降水量、日照時間あるいは降雪量の平年との比較。気温については、週を単位として1週目、2週目、3~4週目のそれぞれの平均気温も予報	1か月平均気温 1か月間降水量 1か月間日照時間 1か月間降雪量（日本海側のみ）	数値予報による予測
3か月予報	毎月20日頃	向こう3か月間の天候	3か月平均気温	統計的な予測
暖候期予報	3月10日頃	夏（6~8月）を中心に春から初秋にかけての大まかな天候	夏の3か月平均気温（6~8月）	統計的な予測
寒候期予報	10月9日頃	冬（12~2月）を中心に晩秋から春先にかけての大まかな天候	冬の3か月平均気温（12~2月）	統計的な予測

■数値予報による予測



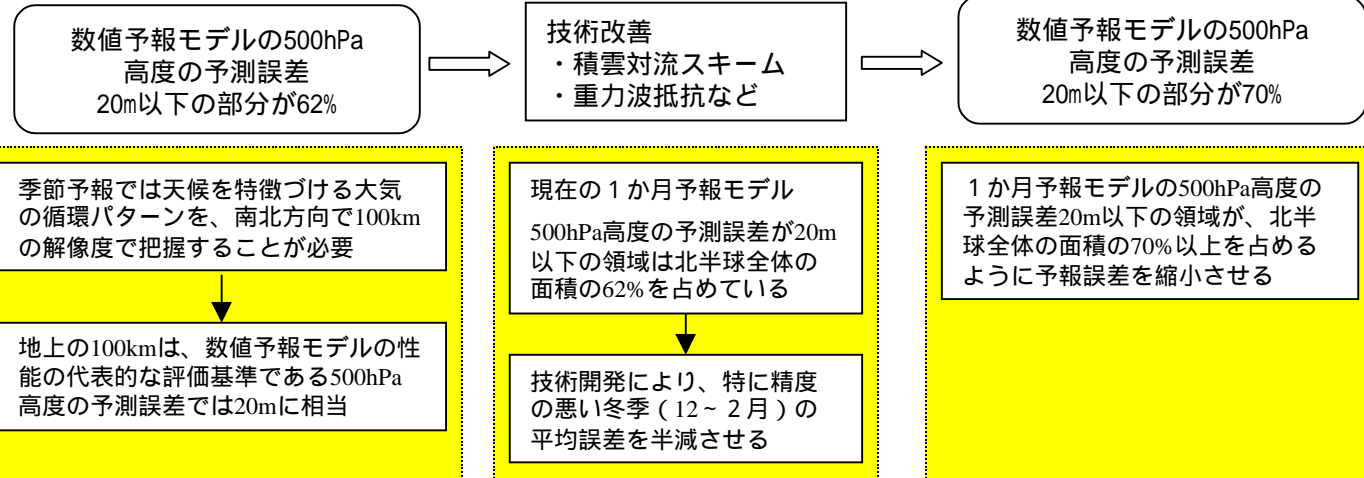
- ①観測誤差を考慮したいいくつかの初期値を作成し複数の数値予報を行います（アンサンブル手法）。
- ②それぞれの予測結果は、予測時間が延びるほどバラツキが大きくなります（大気自身の性質あるいは観測データの量や品質の限界などによる）。
- ③季節予報では、複数の予測結果の平均やバラツキの大きさを考慮し、確率的に表現しています。

■統計的な予測



現在の大気や海洋等の状況を過去数十年の資料と照らし合わせて、統計的に天候等を予測します。

○指標設定(1か月予報の精度)の考え方



○指定設定(数値予報モデルによる予測期間の延長)の考え方

現在、統計的な予測手法を用いている3か月予報、暖候期(寒候期)予報に数値予報モデルによる予測方法を導入する。